



第2回日本青年伝道会議 (NSD2) 二日目の全体集会で KKG ダンスチームのパフォーマンスに合わせて賛美する参加者たち (写真: クリスマン新聞)

## 「神の国マインド」による宣教協力を

「時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」マルコの福音書 1:15

2011年4月1日の朝、仙台バプテスト神学校で目を覚まし、石巻、女川方面の教会と避難所に支援物資を配ることから、私の JEA 総主事としての働きが始まりました。東日本大震災被災地での支援活動に関わる中で教えられたのは、具体的な支援を通して神様の愛を人々に届けることの大切さでした。避難所で「宗教はお断り」と言われるような状況の中、国内外からのクリスチャンたちが支援物資を配ったり、避難所・仮設住宅での支援活動に協力するなど、神様の愛の統治(神の国)が徐々に地域に浸透していった結果、やがて地域の方々から「クリストさん」と呼ばれて信頼される働きになっていきました。

主イエスが「神の国はあなたがたのただ中にあるのです。」(ルカ 17:21)と言われたように、神の国(バシレイア=統治)のイメージは周りを境界線(国境)で囲われた領域ではなく、中心に王(イエス・キリスト)がいて、その統治が同心円状に広がっていくイメージです。水面に落ちた絵の具が広がっていくように、神様の愛の統治は境界線なく世界に広がっていきます。その中心点は私たち一人ひとりの魂です。私たちがイエス様の十字架の愛に触れられて魂の変革を経験し、悔い改めて福音を信じる者として生き始めた時、私たち自身の中に神様の愛の統治(神の国)が広がり始め、その神の国は私たちを通して、家族、友人、学校、職場、地域などに浸透していきます。被災地で経験した神の国の広がりもそのようなものでした。

このように十字架の福音を中心に世界に染み

込んでいく神様の愛の統治をイメージすることが「神の国マインド」による宣教協力の大切なポイントだと思います。ただ違いをこえて協力するというのではなく、その中心に主イエス・キリストの十字架の愛による魂の変革が共通のベクトルとしてあることを確認し、その福音主義信仰(Evangelical faith)の中心ベクトルの明確さゆえに、その魂の変革をもたらす神様の愛の統治(神の国)が前進していくためなら、他の違いを乗り越えて力を合わせていこうというのが「神の国マインド」による協力であり、そこがいわゆるエキュメニズムによる協力とは異なる点だと考えています。

また「神の国マインド」による宣教協力は、神の国の視点から物事を見るということでもあります。世界宣教の到達度を示す一つの指標として未伝ピープルグループ(Unreached People Group)という考え方があります。その情報を公開しているジョシュアプロジェクトのウェブサイト(<https://joshuaproject.net/>)によれば、日本人はバングラデシュのシャイク族に次いで世界で2番目に大きな未伝ピープルグループです。日本語を話す、あるいは日本に住むクリスチャンとして神の国から派遣された私たちは、皆この日本に住む人々に福音を伝える使命を与えられており、主イエスに報告する義務を負っています。この神の国の視点から見れば、



品川謙一  
JEA 前総主事  
日本キリスト合同教会  
東浦和教会協力牧師

また「神の国マインド」による宣教協力は、神の国の視点から物事を見るということでもあります。世界宣教の到達度を示す一つの指標として未伝ピープルグループ(Unreached People Group)という考え方があります。その情報を公開しているジョシュアプロジェクトのウェブサイト(<https://joshuaproject.net/>)によれば、日本人はバングラデシュのシャイク族に次いで世界で2番目に大きな未伝ピープルグループです。日本語を話す、あるいは日本に住むクリスチャンとして神の国から派遣された私たちは、皆この日本に住む人々に福音を伝える使命を与えられており、主イエスに報告する義務を負っています。この神の国の視点から見れば、

(Page 8 に続く)

### 目次

巻頭言	1
東海だからその宣教協力	2
次世代育成の現状とこれから Bless Japan の祈り	3
青年たちに寄り添う	4
国内災害対策フォーラム	5
牧師の本棚「神の小屋」 天皇の代替わり	6
流れのほとり	7
JEA アップデート 新総主事挨拶	8

## 2019 年宣教委員会各部門の活動

中西雅裕 JEA 理事・宣教委員長  
日本ホーリネス教団 横浜教会

★三部門に分かれた宣教委員会は活発に活動しています。

- ①宣教フォーラム部門は、1月にJCE7プロジェクトリーダー・ミーティングを開き、各プロジェクトの働きの調整と応援の時を持ちました。また11月11日～12日に予定されているJEA宣教フォーラム@九州(仮題)の準備を現地の委員会と協力して行っています。
- ②宣教研究部門は、御協力いただいた次世代育成に関するアンケートの分析を進め、何らかの提言を出そうとしています。また各地域のネットワークリストを作成し、お問い合わせい

ただければ、各都道府県でどのようなネットワークが活動しているかお教えし、またその連絡先をお伝えする体制が整っています。お用い下さい。

- ③異文化宣教ネットワーク部門は、ひろばグローバルを通して、在外日本語宣教従事者の集いと在日外国語宣教ネットワークの協力関係を広げつつあります。1月には三部門のメンバーが集まって、それぞれの部門の働きを報告し、協力し合うためのリトリートが持たれました。また隣人シリーズの働きも地域的に広がっています。

## 東海だからこそその宣教協力

宣教フォーラム@東海レポート

内村保 宣教委員(宣教フォーラム部門)  
JEA 宣教フォーラム@東海実行委員長  
日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 名古屋神召キリスト教会

2018年9月24日(月・祝)～25日(火)、「東海を知る」というテーマで、在日大韓基督教会名古屋教会を会場に「2018JEA 宣教フォーラム@東海」がJEA 宣教委員会、JEA 宣教フォーラム@東海実行委員会によって開催され、93名(内当日参加者14名、若者セッションは除く)が集まりました。初日は、13時からのオープニング前に東海宣教歴史のスライドショーがあり、JEA 理事長挨拶後に「東海の宣教の歴史を知る」ために、長年東海地区で伝道教会してきた内村徹母耳名古屋神召キリスト教会牧師と河野勇一緑バプテスト・キリスト教会牧師の二人の先生方に語っていただきました。

14時からは、「東海各牧師会を知る」ためのパネルディスカッションがあり、名古屋西地区は保浦宏規大須教会牧師、名古屋東地区は池上泉虹ヶ丘聖書教会牧師、名古屋南地区は秋山直光中央聖泉キリスト教会牧師、三重・北勢地区は石黒イサク富田浜聖書教会牧師、三河・豊田地区は高山清和豊田教会牧師がそれぞれの牧師会の始まり、特徴等が紹介されました。

今回の特徴の一つは、メイン集会とは別に17時半からキリスト聖書学園を会場に「東海の若者を知る」Mission & U(若者セッション)が、キリスト者学生会(KGK)、キャンパス・クルセード・フォー・クライスト(CCC)、高校生聖書伝道協会(hi-b.a.)の三団体協力で行われたことでした。57教会から118名が集

まり、食事と交わり、賛美、メッセージをともにしました。このセッションは10代～30代限定で、東海地域の教会の将来を見せてくれるものでした。今後も若者の宣教協力のため、上記の三団体を中心に年に1回ペースでこのようなセッションを東海地域でもつことが決定され、そのための資金もささげられたことは大きな収穫でした。

また、同時に「東海の味を知る」ための名古屋めしツアー、外国語礼拝の方々との交わり、女性の交わりなどが自由に行われました。

二日目は、JEA 宣教委員会からの報告がなされ、その後、8つの分科会がもたれました。全体報告会では、若者セッション、各分科会の報告がなされ、閉会礼拝をもって終了しました。

この東海地域は、東京と大阪の間の「福音の谷間」と言われているようですが、東海の歴史をみると、谷間だから生まれてきた宣教協力があり、他のところとは異なる宣教方法があることも知ることができました。またこの東海だからこそ、若者対象の3つの超教派団体が一つとなり、東海の宣教の将来を見ることができたと思います。全体を通し、「東海を知る」をテーマにして、東海にいる人たちも、東海へ来る人たちへも東海を知っていただけるものとなりました。ここから新たな東海の宣教が始まり、進められていくことを信じ願っています。



(写真：クリスチャン新聞)

## 次世代育成の現状とこれから

### 次世代アンケート中間報告

福井誠 宣教委員（宣教研究部門）  
日本バプテスト教会連合 玉川キリスト教会

日本のキリスト教会全体の教勢は、「少子・高齢化社会」の到来やキリスト教会の伝道力（受洗者を産み出す力）の低下によって、自然減に陥っており危機的な状況にあります。また、青年層の減少も顕著で、日本のキリスト教会の将来を見据える時、次の世代に信仰を継承していくための「次世代育成」が喫緊の課題となっています。

そこで JEA 宣教委員会研究部門では「次世代育成」について、特にその環境を整える宣教インフラの整備について、現状と課題を洗い出しつつ、日本の教会の中長期的な将来を見据えた宣教方策を検討してきました。その中心的な作業が、JEA 所属の教会、教団・教派、宣教団体、また全国のキリスト教学校へのアンケート調査です。まずこの調査に皆様のご協力をいただきましたことに感謝を申し上げます。

現在、諸教会 232 教会、教団・教派 18 団体、プロテスタント・キリスト教学校同盟に所属するキリスト教学校 26 校、宣教団体 11 団体の協力を得ることができ、中西雅裕宣教委員長のリーダーシップの下、定期的にミーティングを重ね、分析を進めております。分析結果については、さらに各教団教派の宣教研究部門担当者による検討会、次世代育成に関する有識者の懇談会、JEA の関連委員会との懇談会、そして先行研究などの文献検討

などの考察を加えて、最終的な次世代育成提言案をまとめる作業に入っています。

次世代にリーダーシップが身につかない、次世代リーダーが不足している、次世代リーダー育成に必要な組織体制や制度が整っていない、といったどの教会、教団・教派も感じている今日的状況に対して、既に取り組みを開始している団体の事例も明らかになってきていますが、戦略や方法論を提示できても、必ずしも汎用性のあるものではなかったり、思ったほどの成果は得られずにいる段階のものもあつたり、現状はなかなか厳しいものがあります。ただ、次世代育成においても王道がないことは明らかですが、目的やゴールを明確にし、狙った成果が出るまで地道に時間をかけ、努力をする中で手応えを感じているケースもあります。つまりどんな人材を育成するのか、聖書的な観点から整理して、それをどのような制度でもって、計画的に推進していくのか、そこを整理した上で、次世代の候補者一人ひとりにチャレンジの機会が与えられている団体においては、動きがあります。

提言集が妥当性、実効性のあるものとなるために、今後ともぜひ続けて皆様のフィードバック等、ご協力をよろしくおねがいいたします。

## Bless Japan の祈りを共に

### 国内外国語教会からのメッセージ

ボイ・アリンソッド  
Japan Council of Philippine Churches 代表

私が最初に日本に来たのは 1990 年代初め、日本のフィリピン人コミュニティが大きくなり始めた頃でした。1987 年からフィリピンのケソン市で、日本からの宣教師と一緒に教会開拓をしていた私たちは、聖霊の導きを感じ日本でのミニストリーのために祈り始めました。しかし当時、多くのグループ教会をまとめる主任牧師だったため、後任者を訓練し、私たち夫婦が宣教師として遣わされるまで時間がかかりました。1998 年、ついに日本への宣教師として派遣され、高田馬場で在日フィリピン人教会の開拓をスタートし、この 20 年間で 5 つの教会を開拓し、今 6 つ目が誕生しようとしています。

フィリピンで牧会していた頃、ケソン市には地域の牧師会があり、教会の牧師同士が交わり、互いのために祈り合うネットワークがありました。日本に来てそのような交わりを失ってしまった私はとても寂しい思いをしていましたが、実は他のフィリピン人牧師たちも同じ思いを抱えていることがわかり、草の根的に在日フィリピン人教会の牧師たちの交わりが始まっていきました。その後、その交わりをベースにして 2011 年に JCPC (Japan Council of Philippine Churches) が誕生し、現在 35 から 40 教会がネットワークに参加しています。

JCPC では毎年、Bless Japan Prayer Summit という集会を主催し、在日フィリピン人教会が集まって日本の祝福とリバイバル、日本の教会のために祈りを合わせています。それは私たちの教会開拓当初から、在日フィリピン人のためだけでなく、

フィリピン人コミュニティを通して日本人に福音を伝えていくことが、神様から与えられたビジョンであるからです。

そして 2016 年 9 月に神戸で開催された第 6 回日本伝道会議 (JCE6) に参加した際、主講師のクリス・ライト師を通して、この日本に世界各国から集まっている神の民が、日本の福音化のために協力していくというビジョンを神様から与えられました。それで福田崇師 (日本ウィクリフ聖書翻訳協会) を中心に Ethnic Ministries Network Japan (EMNJ) を立ち上げ、2018 年は Bless Japan Prayer Summit を拡大して、フィリピン人教会だけでなく他の国々の在日外国語教会も参加して集会をもちました。

私が日本の教会の皆さんにお伝えしたいことは、まず第一に、この宣教の困難な日本の地に福音を伝え続けてくださっていることへの感謝です。そして第二に、私たち外国人クリスチャンは日本のクリスチャン、教会を愛し、皆さんのために祈っているということです。この日本全体がやがて主イエス・キリストの御前にひざまずく日が来ることを夢みながら、日本の福音化のために力を合わせていきたいと願っています。

(2018 年 11 月 3 日、Bless Japan Prayer Summit 開催時に  
品川謙一 JEA 前総主事のインタビューに答えた内容)



# 「神の国マインド」で寄り添う

NSD2(第2回日本青年伝道会議)の取り組み

佐野泰道 JEA 青年委員

NSD2 実行委員長

日本同盟基督教団 霞ヶ関キリスト教会

青年委員会は、第2回日本青年伝道会議(以下、NSD II)を開催することができました。皆様のお祈りとご協力、またお献げものを心から感謝いたします。

思い起こせば、第1回NSDは2012年でした。あれから6年。青年たちを取り巻く状況は大きく変化しました。労働環境は悪化し、経済的にも精神的にも厳しくなりました。結婚や恋愛、人生の幸福などの価値観が多様化し、友人関係で気を使うようになり、誰にも「助けて」と言えない社会になりました。教会からは青年たちが少なくなり、“若い奉仕者”としての青年に多くの期待をしなければならなくなりました。その結果、平日は仕事でヘトヘトになり、日曜日に這うようにして教会に行くと、そこでまた疲れることになりました。中には、教会が嫌いになりそうになり、それがいやで静かに教会を去る者たちがいました。

青年委員会は、そのような青年たちに寄り添い、青年たちの発する声に耳を傾けたいと願ってきました。毎年、青年宣教サミットを行い、各教団教派の青年宣教の担当者やキャン



プ伝道に関わる人たち、そして超教派団体のスタッフたちと集まり、青年たちの状況を分かち合い、祈りました。

すべての参加者に共通していたのは、青年たちを励ましたいという気持ちでした。自分たちができることは限られているけれど、何とかして青年たちの助けになりたい。古い伝統や昔からの価値観に阻まれそうになることもありますが、今できることをしたい。そうやって、青年たちを愛する人たちと共に、青年宣教について語り合ってきました。NSD IIは、青年たちを愛する祈りの実りでした。

テーマは「神の国マインドに生きる」。中心聖句は「時が満ち、神の国は近くなった。悔い改めて福音を信じなさい」(マルコ1章15節)としました。「神の国マインド」という言葉は、青年宣教サミット(2018/1/22開催)における品川謙一師(前JEA総主事)の基調講演から生まれたものです。品川師は、“かつては教団教派の違いや強調点を大切にすあまり、宣教協力できない場面があった。しかし今は「神の国を共に建てる」という共通認識において宣教協力ができるのではないかと語られました。「神の国マインド」は、青年宣教に取り組む際に無くてはならない心の姿勢として認識されました。

また「神の国」は、青年たちを福音の光の中に立たせる言

葉でもありました。仕事や学校、恋愛や結婚、経済や人生設計という生の現場において、「神の国」は福音の豊かさに生きることへと招きます。遣わされた地でキリスト者として生きようチャレンジします。そして、それは青年たちを福音によって励ますことになります。そういう願いと祈りによって、「神の国マインドに生きる」というテーマが決定しました。



このテーマに従って、全体のプログラムが構成されました。青年宣教サミットでは「青年の育成と伝道に取り組んでいくために」という題目を掲げ、<発題(2名)とグループタイム>というセッションを2回、行いました。教職や超教派団体のスタッフだけでなく青年・大学生・高校生など、170名を超える申し込みがありました。

青年大会では、3回にわたって「神の国マインドに生きる」というテーマで福音が語られました。メッセンジャーは、山本陽一郎師(青年大会①、同盟)、飯田岳師(青年大会②、東京FM)、松尾献師(青年大会③、KGK)でした。みことばによって神の国という視点に目が開かれ、神様に遣わされた場所で神の国のために生きる決意を新たにされました。参加者のアンケートには、メッセージに対する感謝が多く寄せられました。ワーシップバンドのリードのもと、心をつなげて神様を賛美し、栄光と感謝をささげました。

分科会では、進路、仕事、証し、宣教、恋愛・結婚、異端、クリスチャンキャンプ、メディア、次世代との関わりなど、青年が聴きたいテーマに応えることができました。また3日目には、3つの会場に分かれて「中高生プログラム」、「大学生・専門学生プログラム」、「社会人プログラム」を行い、近い年代同士で交わる場を持ちました。



青年宣教をめぐる課題は、時代と共に変化していきます。青年たちと神の国を建て上げていくためには、「神の国マインド」を持ちながら彼らに寄り添う人々が必要であることを、NSD IIを通して教えられました。(写真:クリスチャン新聞)

## 第三回国内災害対策フォーラム開催

村上正道 援助協力委員長  
JECA 湘南のぞみキリスト教会

昨年 10 月 30 日 (火) に第三回国内災害対策フォーラムを行いました。JEA の所属教団と団体から、それぞれ代表の方々がご参加くださり感謝いたします。

内容は三部構成で、第一部が岡山キリスト災害支援室の草井琢弘師、キリスト教会・広島災害対策室の北野献慈師、九州キリスト災害支援センターの市来雅伸兄が、それぞれ 7 月に発生した西日本豪雨の被災地から支援活動の証しをしてください、日本同盟基督教団日立福音キリスト教会の郷津正子師が東日本大震災から、そしてイマヌエル綜合伝道団浜松キリスト教会の葛田直毅師が中越地震から、それぞれご自分の支援体験の証しをお語りくださいました。第二部が各支援団体（ワールドビジョンジャパン、救世軍、クラッシュジャパン、ハンガゼロ、オペレーション・ブレスリング・ジャパン）からの被災地支援における報告、そして第三部がそれぞれのテーマ（地域ネットワーク、マニュアル作り、防災の準備）ごとのディスカッションを行いました。

参加者の方々から、第一部の証しについて「率直な思いや心の状況なども語っていただき感謝でした」、「被災した教会だけではなく、周囲の地域教会こそが重荷を担うことの必要を知った」などの声がありました。また第二部の支援団体の活動の様

子や報告については「災害が起こった時に支援団体がどのように動くかというだけでなく、自分たちが日ごろから教会間のネットワークを築いておくことの大切さを教えられました」という感想がありました。

今年も 6 月 25 日 (火) 午前 10 時 30 分から午後 12 時 30 分まで第四回国内災害対策フォーラムを行う予定ですので、ふるってご参加ください。



また、同日午後には首都圏広域教会防災ネットワークフォーラムも行われます。テーマは初動体制で、各地域の教会防災ネットワークが初動体制について具体的に準備をすることを目的としています。各教団と各団体の災害担当の方々にもご自分の教団や団体内での備えだけではなく、地域における防災のためのネットワーク作りの大切さを認識していただき、これからのマニュアル作りに活かしていただければと願っています。首都圏広域教会防災ネットワークフォーラムにもぜひ合わせてご参加いただければと思います。

### ◆◆援助協力委員会 2017 年度会計報告◆◆

2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日

収 入	科目	金額	支 出	科目	金額
	東日本大震災支援金	101,178		東日本大震災支援金	130,000
世界の自然災害への支援金 (常設)	322,120	ネパール支援金	165,990		
熊本地震支援金	225,181	熊本地震支援金	200,000		
九州豪雨支援金	66,327	九州豪雨支援金	130,000		
援助協力基金献金 (常設)	118,900	諸経費 / ネットワーク支援 / 事務所費	1,867,674		
援助協力基金への繰入金	35,740	支出合計	2,493,664		
雑収入合計	147	収入合計	17,959,204		
前年度繰越金	17,089,611	支出合計	2,493,664		
収入合計	17,959,204	次年度繰越金	15,465,540		

#### 《献金者リスト》 (敬称略・順不同) 2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日

##### ●援助協力基金 (常設)

新井聖書教会、清瀬バプテスト教会、東京 F M 小金井教会、長津田みなみキリスト教会

##### ●東日本大震災支援金

麻溝台キリスト教会、岡山市民クリスマス実行委員会、小田原荻窪キリスト教会、日本神の教会連盟、東京 F M 八王子中野キリスト教会

##### ●世界の自然災害への支援金 (常設) :

アジア・アウトリーチ・ジャパン、大磯キリスト教会、世界福音伝道会、日本イエス岡南教会、日本フリーメソジスト教団  
日本 F M 阪南キリスト教会、めぐみの丘チャペル

##### ●熊本地震への支援金

小田原荻窪キリスト教会、近隣 9 教会連合祈禱会、交野バプテスト教会、日本 F M 堺キリスト教会、玉川上水キリスト教会、東京カペナント教会  
所沢聖書教会、保守バプテスト同盟

##### ●九州豪雨地震への支援金

コイノニアクリスチャンチャーチ、シオンキリスト教団、西武柳沢キリスト教会、日進キリスト教会、日本 M B 藤が丘キリスト教会

\* 支援献金は以下の口座にお振り込みくださいますようお願いいたします

##### ●郵便振替: 00190-5-7790

加入者名: (JEA) 日本福音同盟援助協力委員会

##### ●三菱東京 U F J 銀行: 神保町支店

加入者名: JEA 日本福音同盟援助協力委員会 委員長 村上正道 013-0305243

\* 三菱東京 U F J 銀行へ振り込まれる場合は、メールか FAX でお名前、住所、連絡先をお知らせください。

## 牧師の本棚

## 物語の薦め・・・『神の小屋』

(ウィリアム・ポール・ヤング著、結城絵美子訳、  
いのちのこば社、2015年)

千代崎備道 神学委員  
日本ホーリネス教団  
池の上キリスト教会

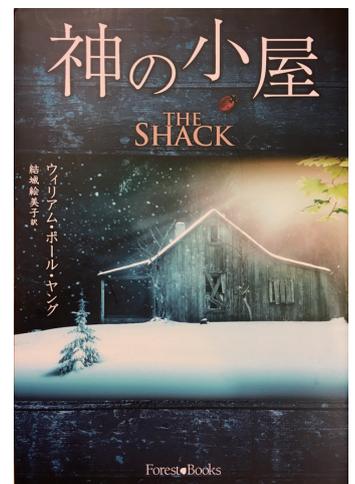
物語神学やメタ・ナラティブという難しいことではなく、文学ジャンルとしての物語です。聖書にも多くの「物語」があります。「ナルニア国物語」など聖書を題材とした小説を説教の例話に用いることがあります。

家族に薦められていた『神の小屋』を買った決め手は「現代のヨブ記」という宣伝文句でした。教会の修養会で「ヨブ記と苦難の意味」というテーマで学ぶ準備をしていて、ぜひ読まなければと本を開きました。「苦難の意味」を考えさせる点でヨブ記にも通じますが、三位一体論や救済論にまで及ぶ内容以上に、サスペンス的な展開に惹き付けられ一気に読ませる小説です。父なる神や聖霊の描写には賛否があるかもしれませんが、三位一体の神と主人公と一緒に過ごす週末の場面に自分も同席しているような馴染み方を憶えました。物語が終わる頃には主人公自身の体験が、そして「罪の赦し」が持つ不思議な力が、納得できるように感じました。

内容を詳しく書くことは「ネタばらし」になりますので、控えますが、末娘を誘拐され失った主人公が神との交わり（それは霊的な意味以上の美しい体験）を通して徐々に癒やされ、さらに変えられて行く様子まるで映像の様に描かれています。映画化されましたが、長い小説が苦手な人には映画を、映画では謎が多くて分かりにくかった人には小説をお薦めします。

物語は、その世界の中に読み手を誘い、共感させ、追体験をさせ、思いや考え方で影響を与えます。しばしば説教そのものよりも例話の方が印象に強く残ったり、心を揺り動かすこともあるのも、物語（創作でも事実でも）の持つ力です。

すでに邦訳された「レフト・ビハインド」をアメリカで読んだとき、英語の苦手な私でも読むのを止められなかったほどに惹き付けられました。再臨は昔からキリスト教界を分断するほどの難しい問題で、友人の一人は「携挙派のプロパガンダ」と酷評しますが、子どもの頃から携挙を教えられた私には自然に受け止められた、のは最初のうちだけ。途中からは携挙後の大艱難時代に活躍する主人公たちに惹き付けられ、携挙が（もう二度と）無い終末に生きるクリスチャンに魅了されていました。物語の持つ共感性は、神学的な相違さえも飲み込むほどの奥深さがあるのかも知れません。



## 天皇の代替わりについて対話を

須田毅 社会委員  
JECA 西堀キリスト福音教会

2018年11月30日(金)、駒込の中央聖書神学校を会場に第30回信教の自由セミナーが開催されました。今回は社会委員会の呼びかけに応答下さり神学委員会、女性委員会、青年委員会の協力を得て四委員会の共催でした。

このセミナーに先立ち、小冊子「その時に備えてPart2 天皇の代替わりQ&A」がJEA社会委員会より発行されました(44p、一部200円)。1980年代終わりの平成への天皇代替わりの時期、キリスト教会は教派を広く横断して、政教分離



原則に違反する国家行事としての実施に反対を示しました。しかし、2019年の天皇代替わりに対するキリスト

教会の態度には、30年でこれほど変化するものかと思わせる後退感を感じます。

しかし、この印象はまさにどこでも共通の「社会委員会」的な態度ではないか、との反省が、当委員会内で共有されてきました。今回の小冊子作成の大きな目的の一つは「対話」で、関心のある方々と関心の無い方々との対話のきっかけとなるように、委員が属する諸教会で、信教の自由について、今、どのように兄弟が捉えているか、対話し取材したものをから問いが作られました。入門的なQ&Aとすべく、読者に届く表現となるようディスカッションを重ねました。

セミナー当日は、野寺恵美委員(女性委員会オブザーバー)の司会により開始し、小岩井信委員による詩篇51からの開会礼拝説教、上中栄委員長からの主題発題がなされました。そして、小冊子と対話しつつ三委員会から能城一郎師(神学委員長)、藤田真木子師(女性委員長)、船橋誠師(青年委員会担当理事)が発題されました。能城師はJEA神学委員会・社会委員

## 流れのほとりで No.24

2017年6月に女性委員長のバトンを渡されてから女性委員会のテーマ「宣教における女性の働き」を念頭に今までの歩みをたどる作業をしてきました。委員会発足の理念、アジア・世界女性会議参加の報告、論文や書物を共に読み、実際に過去の委員を訪問して話を聞く機会も持ちました。内外からの「女性委員会とは？」との問いかけに向き合った一年半でありました。それは、動よりも静、doよりもbeの在り方であったと言えます。

「主は答えられた。『マルタ、マルタ、あなたはいろいろなことを思い煩って、心を乱しています。しかし、必要なことは一つだけです。マリヤはその良い方を選びました。それが彼女から取り上げられることはありません。』」（ルカの福音書10章41～42節）

主に仕える姿を示す聖書の記録です。主は、主の足元にすわってみことばに聞くマリヤの姿勢こそ「必要なこと」「良いほう」と言われました。元女性委員の稲垣緋紗子先生によって届けられた本『聖書は女性をどう見るか―神のかたちとして造られた人』（稲垣緋紗子著、いのちのことば社）の学びは、女性の在り方を聖書に聞くために始まりました。

一方、マルタも行動力だけでなく主への正しい信仰告白を持っていました。

「彼女（マルタ）はイエスに言った。『はい、主よ。私は、あなたが世に来られる神の子キリストであると信じております。』」（ヨハネの福音書11章27節）

真の信仰告白は、応答を生みます。どのように生きるべきかを考え、行動へと繋がります。

2018年9月、東海地区女性教職者と東海地区女性委員会発

藤田真木子 女性委員長  
日本同盟基督教団 北総大地キリスト教会

足への可能性を語り合いました。11月、社会・神学・青年・女性委員会共催「信教の自由セミナー」にパネラーとして参加しました。さらに今年2019年6月は関西地区でリトリートを開催し、「置かれたところで生き生きと」をテーマにルツ記から学び、参加者それぞれが応答する機会とします。

みことばに聞く姿勢を大切に、その応答としての取り組みをなす歩みをと願います。



### 新委員自己紹介

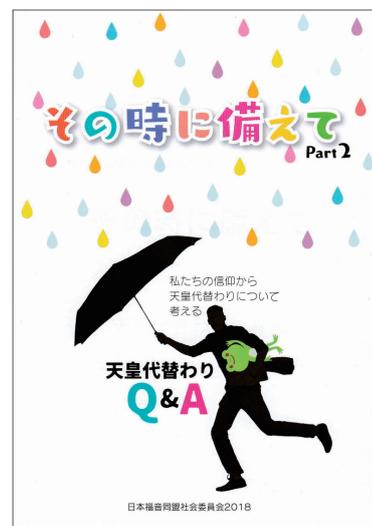
ナカノ・ユリ 女性委員 / JEMA

JEAとJEMA(日本福音宣教師団)が長年協力をして一緒に日本の福音宣教のために働いてきた歴史があり、JEA女性委員会にもJEMAからの参加が期待されていることを最近知り、委員を引き受けました。私は2010年に北米バプテスト宣教団(North American Baptist Conference)の宣教師としてカナダから来日しました。名前は中野百合ですが、カナダ生まれの日系二世なのでカタカナで「ナカノ・ユリ」と表記しています。これからJEAの女性委員会の働きのためにお祈りさせていただき、協力していきたいと思っております。どうぞよろしくお祈りいたします。

## JEA 社会委員会

会発行の過去のパンフレットなどから歴史的営みを振り返る中での評価、藤田師は地域教会での学びを積み重ねる証しと共に、社会的責任もきちんと信仰内の課題とする視点、船橋師より青年層と社会的関心のギャップや青年たちを取り込むSNSやメディアの積極的使用の提案などがなされました。

全体で約三十数名の参加者でしたが、熱心な参加者から教会内で課題を分かち合うための関心、そしてこの2019年における教会の社会的取り組みについての関心から生まれる質問が多くありました。参加者の中で小冊子を複数購入された方も多く、教会内での対話のために用いるお考えだと想像しています。当報告を目にして下さった方々も、宣教・伝道の課題としての天皇制という点でも改めて教会の姉妹と対話していただき、当小冊子もぜひ購入して諸教会で用いていただくようお願いいたします。(写真：クリスチャン新聞)



「その時に備えて Part2 天皇の代替わり Q&A」

(Page 1 から続き)

教会も宣教団体も、日本国内で日本人に伝道している教会も、海外で日本語を話す人々(外国籍の方も含む)に伝道している教会も、日本国内で外国語を話す人々を通して日本人家族や友人たちに伝道している教会も、同じ責任を共有する同労者であると言えるでしょう。このような(福音による魂の変革を中心ベクトルとした)「神の国マインド」による宣教協力が広がっていくよう願っています。

JEA 総主事として奉仕させていただいた8年間、福音宣教のために労苦を共にする素晴らしい方々との出会いに恵まれました。皆さんの祈りと協力なしにできなかった働きであったと改めて思います。小さく欠け多き者のために、これまで祈り、ご協力くださったお一人おひとりに心から感謝すると共に、新たにこの働きを担ってくださる岩上敬人新総主事のためにも、さらなるお祈りとご協力をお願いいたします。



AEA 新総主事に就任したブジジャント師(中央)  
就任式を司式する植木英次 AEA 議長(右)



左より、マイケル・オー国際ローザンヌ総裁、  
品川謙一前総主事、岩上敬人新総主事、立石充子  
日本ローザンヌ委員会主事、国際ローザンヌ・アジア  
担当のフィリップ・チャン師

## JEAアップデート

### アジア福音同盟 (AEA) 新総主事にバンバン・ブジジャント師が就任

アジア福音同盟 (AEA) 実行委員会が2019年2月26日～28日、タイ国バンコクで開催され、AEA 総主事として10年間忠実な奉仕をされたりチャード・ハウエル師(インド)が退任し、新たにバンバン・ブジジャント師(インドネシア)がAEA 総主事として選任され、AEA 議長である植木英次師(JEA 国際渉外室長)によって任職式が執り行われました。ブジジャント師はJCE6 こどもプロジェクトとして取り組んでいる4/14の窓運動の提唱者であり、一昨年のJEA 総会で次世代育成をテーマに講演してくださいました。

### マイケル・オー国際ローザンヌ運動総裁が JEA 事務所訪問

2019年3月29日、国際ローザンヌ運動総裁のマイケル・オー師とアジア地区担当のフィリップ・チャン師がJEA 事務所を訪問され、品川謙一前総主事から岩上敬人新総主事への交代にあたって挨拶を交わしました。また世界宣教の潮流と国際ローザンヌ運動の最新の動向、日本の宣教課題などを分かち合い、互いの働きのために祈り合いました。

## 新総主事挨拶

このたび、品川謙一総主事の後任として、新年度より総主事に就くことになりましたイムマヌエル総合伝道団の岩上敬人(いわがみたかひと)と申します。主にありて宜しく願い申し上げます。イムマヌエル教会の牧師家庭に育ち、高校生のときに召しの声を聞いて、大学卒業後にイムマヌエルの神学校に進んで、牧師となりました。その後、米国と英国での留学で新約聖書学(パウロ研究)を学びました。帰国後は地域教会の牧会、神学校での教鞭、また短い期間でしたが宣教師(ジャマイカ派遣)としても奉仕をしてきました。

2011年の東日本大震災以降、援助協力委員として日本福音同盟の働きに携わらせていただき、特に災害対応において、品川先生と一緒にこれまで奉仕をさせていただきました。総主事の働きがどれほど責任が大きく、品川先生が豊かな賜物を用いてご奉仕されている姿を目の当たりにしながら、自らの小ささに恐れを覚えますが、「主がお入り用なのです」(マタイ21:3)のみことばに励まされつつ、引継ぎをさせていただきます。JEA 関係の諸教会の祈りを何よりも必要としております。どうぞ小さな器を覚え、またその職務を果たすことができますようお祈りをどうぞ宜しくお願い申し上げます。



## JEA 総務局から

- ◆ 2011年4月からJEA 総主事として奉仕した品川謙一師(日本キリスト合同教会)は2019年3月で退任し、4月から岩上敬人師(イムマヌエル総合伝道団)がJEA 総主事に就任しました。また、加藤知子総務局スタッフも3月末で退職しました。
- ◆ JEA 総務局新メンバー: 岩上敬人(総主事)、小野寺従道(総務局次長)、石田敏則(総務アドバイザー)、松下和弘(総務アドバイザー)、西田幸子(総務局スタッフ)、古波津礼美(総務局スタッフ)。どうぞよろしく願いいたします。
- ◆ JEA 総務局のメールアドレスが [admin@jeanet.org](mailto:admin@jeanet.org) に変更されました。



## 日本福音同盟

心をつなげて福音の信仰のために力を合わせて戦い(ピリピ1:27)

JEA ニュース 53号 発行・日本福音同盟(JEA)  
発行者: 廣瀬薫 編集者: 品川謙一  
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1 OCC 内  
TEL: 03-3295-1765 FAX: 03-3295-1933  
email: [admin@jeanet.org](mailto:admin@jeanet.org)  
郵便振替: 00150-8-68442 (口座名義: JEA)